ぷらたなす

NO.1
卯月
（うづき）
長井高等学校
図書委員会
図書館
2025.4.30

新学期、読書のススメ！

暖かく気持ちのよい陽気と共に新しい一年がスタートしました。４月は読書と深い関わりを持つ月であり、「子ども読書の日」等の読書活動を促進する様々なイベントが存在します。

又、４月 23 日は「世界本の日」という読書と文化の発展の促進を目的とするユネスコ制定の記念日であり、「Word Book and Copyright　Day」ということから「世界図書・著作権デー」とも呼ばれています。スペインの伝統的な本の記念日である「サン・ジョルディの日」や、劇作家ウィリアム・シェイクスピア等の「文筆家」の誕生日や命日が日付の由来となっており、書籍や作家に敬意を示して出版や著作権の保護を行う事を目標においています。

みなさんも一冊手に取って、記憶に残る読書を体験してはいかがでしょうか。

（2-1 図書委員）

図書委員のおすすめの本

『猫を処方いたします』

石田　祥：著
PHP

京都市中京区の薄暗い路地の奥にある「中京こころのびょういん」妙にノリの軽い医者が心に不調を患い、悩みを抱えた患者に処方するのは薬ではなく本物の猫である。猫を処方され、戸惑いながらも服用していく患者たち。自由気ままで繊細、自分勝手で手がかかる。しかし、温かくて愛くるしい猫たち。そんな猫たちと暮らしていくうちに患者である彼らの心に良い変化が現れるようになる。

この本は、普段の生活にちょっとした癒しを与えてくれる本であると同時に、すこし肩の力を抜いてもいいのだと感じることのできる本だと思う。新学期が始まり、急激に変化する生活、慣れない学校生活に疲れを感じていたり、がんばりすぎてしまう人に読んで欲しい一冊だ。（2-1 図書委員）

図書館長より

押忍！　図書館長です。昨年度でお役御免かと思いきや、今年度も本職を奉ることとなりました。コンゴトモヨロシク。

さて、年度も改まったところで、今回は、本の紹介ではなく、「読書とは何か」という根源的な問いについて、一席打たせて頂こう。

読書とは何か。私思うに、それは「ケーキのようなもの」だ。なくても死にはしないけど、あったら確実に人生を豊かにしてくれるもの。だから、ぶっちゃけ、誰かに強いられてする読書ほどつまらないものはない。埋められたガチョウよろしく、無理矢理腹に詰め込まれるケーキの、旨いはずがあるものかよ。

その流れでいくと、図書館は、「ケーキ屋さんのようなもの」だ。「代金を取らないのだから、その喩えはおかしい」？　いやいや、私立はもとより、公立の図書館でさえ、国や自治体の財布から運営費が賄われている。言い換えれば、「これだけのコストを支払っているのだから、これだけのプロフィットが得られて当然だ」という経済の原理に組み込まれてしまっている。貨幣を媒介とした分業による生産とその消費、すなわち物質的な豊かさを享受していながら、これを卑俗だと蔑むのは、なるほど卑怯だ。だが、プロフィットよりもベネフィット----ここでは、数値的な利益ではなく、非認知的な恩恵の意----を追求することが公共事業の使命であり、学校図書館はその担い手の最たるものではないだろうか。例えば、本館の利用者を増やす手立ての一つとして始まった本稿だが、生憎、プロフィットは芳しくなかった。でも、ベネフィットとしてならば、君の心をどの方向にでも、ほんの僅かでも動かせたなら、仮に他の誰が否定しても、私は大成功だと胸を張る。なぜならば、それが「君だけの、読書の味」だからだ。つまり、ここまで読ませた時点で、私の勝ち！

そんな益体もないことを、名ばかり館長は、思ったり思わなかったりしています。図書館には基本いませんので、安心してどうぞ。